

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人ウェルフェア仙台		
事業所名	仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム		
所在地	宮城県伊具郡丸森町舘矢間山田字市子沢1		
自己評価作成日	令和 5年 1月 5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 2月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中で、一人ひとりが自分のペースで穏やかに生活できるような支援を努めています。認知症があったとしても、周囲の支援を受け自分ではできるだけ行えるよう支援に努めております。また、ご自分で決めていただくような情報提供をした上で自己決定をしてもらい、入所前の生活、自分が希望する生活を継続していけるよう支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは丸森町の中心部から北東に位置し、自然環境に囲まれた高台にある。同法人の特養、デイサービス等が併設され、看護師や栄養士等との協力体制がある。建物は古民家風で趣がある。法人理念「尊厳と思いやり」「地域社会への貢献」を掲げている。入居者の話を否定せず聞き、思いの把握に努めている。本人本位の生活を尊重し個々の能力に応じて出来る事を見極めて支援している。職員がアイデアを出し合い、混乱しないような声掛け等ケアの統一を図っている。家族から入居後は穏やかな表情になったとの言葉が届く。昨年10月より訪問歯科利用が可能になった。職員間は風通しが良く、明るい対応が特徴的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に、理念について研修を実施。日々のケアの中でも、理念の浸透を意識し、具体的に日々のケアで何をするか等毎日の申し送りを利用し実践に結び付けていく。	法人理念とユニット目標の「思いやりを持ちゆったりと向き合い寄り添う」「個々の能力を見極めて支援する」を事務室に掲示し、日々のケアに反映させている。目標は、年度毎に振り返り職員が話し合っていて決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナの影響もあり、地域との直接的な交流の機会は減少しているが、行政、ご家族代表、地域の代表も参加し、定期的な実施している運営推進会議を通して、地域との情報の共有の機会を継続し、内容を職員にも共有。コロナの状況を加味しながら、外部との直接的な交流の再開を	敬老会の案内がある。コロナ禍で参加出来ないが記念品が届く。町内の婦人会が草むしりに来てくれる等の交流がある。自然災害時には、敷地内同法人のデイサービスを中心に近隣住民の避難を受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の継続的な開催。コロナ前は町主催の認知症カフェへの参加実績もあり。現在はコロナの影響もあり、外部との接触の機会が減少しているが、落ち着き次第実施を検討。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を基本として、定期的な実施。実際のサービスの状況を画像も合わせて共有している。行政、ご家族、地域の代表の方にも参加していただき、いただいた意見を職員にも共有することで、サービスの見直しの貴重な機会として活用している。	運営推進会議は町職員や民生委員、家族代表で開催される。ワクチンの副反応や玄関施設が拘束に当たるのか、外部評価はどんな事か等の質問があり、その都度説明している。コロナ対策の労いの言葉が届く。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は、運営推進会議でのサービス内容の共有が主となっております。入居者状況、待機者人数の情報を共有している。	町役場とは介護保険の認定区分変更で連絡を取り、調査時に職員が立ち会っている。ワクチン接種券をホームに郵送して貰い、集団接種に繋げている。リモート研修等の案内が届いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修の実施。身体拘束に該当するような案件はないが、身体拘束につながる不適切ケアの内容とその対応と現場での実践について、運営推進会議でも共有し、身体拘束をしない環境整備に努めております。	玄関は施設していない。離設する方に気がつくようにセンサーを設置し、一緒に散歩する等の対応をしている。気になる言葉遣いは、その都度職員同士で注意し合っている。スピーチロックの弊害について理解が深まり、命令調の言葉は少なくなった。	身体拘束をしないケアを行う為の対策を検討する委員会等が設置されていない。委員会を設置し定期的な開催に繋げて頂きたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施。不適切なケアの発生しない環境の整備。	症状による対応が難しい方は、違う職員に変わる等で協力し合っている。声掛けの工夫を職員間で共有し統一している。管理者は職員と日常的にコミュニケーションをとり、気軽に相談出来る雰囲気作りを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施と全職員への内容の共有		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に対して、契約書と重要事項説明書を用いて丁寧に内容を説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、カンファレンスの際に、状況の共有。日々の状況については、随時、電話等にて情報共有し相談の機会を設けている。内容については申し送り事項にて、共有している。	月1回の定期通院前に電話で話す機会を作っている。窓越し面会を基本にしているが、感染予防をして外のベンチで実施する等状況に応じ柔軟な対応を実現した。寒さ対策を家族と相談し湯たんぽ購入に繋げた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りでの共有。担当職員から情報を細かく収集する事で、職員からの意見や提案を聞く機会を設け反映させていく。	年1回の面接で意見を聞く。職員希望で法人内異動が可能である。遠方帰省の職員に1週間連休取得を全職員が協力し実現させた。介護に関するアイデアや消耗品の購入等はその都度話し合い改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の実施と、人事考課での具体的な目標の設定と現在地の確認。随時での面談にて、職務上の希望の把握。希望休以外にも、業務に支障のない範囲での、希望を受け付け働きやすい環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施と内容の共有。コロナの影響もあり、外部研修の機会は減少しているが、研修の情報については共有し、参加の機会を設けている。外部研修への参加は難しいが仙南ジェロントピアでの内容を共有している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加は難しいが仙南ジェロントピアでの内容を共有している。コロナの影響もあり、外部研修の機会は減少しているが、研修の情報については共有し、参加の機会を設けている。	県主催のケアマネ研修等に参加し、入居希望の情報を得てパンフレット送付を行った。薬剤師に服薬方法について相談する事がある。法人内研修の新人研修や現任職員研修に参加し交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時については、申し送りを細かく設定し、情報を共有している。意識的に利用者様の話を傾聴し、不安材料を解消できるように、信頼関係の構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の聞き取りの時点で、本人様のバックグラウンドから確認し、家族様の思いを丁寧に傾聴することで、いつでも気兼ねなく相談出来る関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、介護支援専門員からも、身体状況を確認し、必要に応じたサービスについても家族様に説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の状況に合わせて、役割について検討し、出来る範囲で職員の協力を得ながら、対応していただく。その際には、感謝、ねぎらいの言葉を合わせてかけるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様への状態報告を密に行ったり、催事への参加の呼びかけ等行い本人と共に支えていく関係を築くように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で現在は直接の交流は減少しているが、知人の来訪がある。自宅近辺方面が併設のデイサービス利用日に訪問の機会を設けている。散髪も町内の理容所が定期で来てくれている	家族との電話や年賀状で関係の継続を支援している。訪問理美容の利用や入居者同士の部屋の行き来で新しい馴染みの関係が出来ている。家族付き添いの通院時に自宅に寄ったり、墓参りする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、時には、利用者同士の関わり合いを見守ったり、仲立ちをしたりして交流支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じて退所後の相談にあたってい る。比較的併設施設への入所が多く、情報 提供や入所後の訪問確認などフォローに努 めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや意向の把握に 努めている。聞き取り出来ない場合は、家族 様に聞き取りをしたり、本人本位を念頭にお き、検討している	1対1で話す機会を大切にしている。食べたい物や欲しい物等を聞いている。洗濯物干しやゴミ捨て等、得意な家事で自信に繋げている。職員帰宅時の見送りを日課にし「車に気を付けて」等と声掛けしてくれる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込みの時より、詳しく聞き取り、出来る限り把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での様子観察と職員間での情報収集、交換、共有で、現状の把握に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント結果に基づき、課題分析を行い、自立支援を念頭に置き、本人本位の介護計画となるように関係者間で話し合い、作成している	変化があった時は、担当職員と管理者が対応を話し合い職員間で共有を図っている。歩行時の適正福祉用具への変更や見守り、医師の指導で水分塩分制限、家族要望で歩く機会を増やす等プラン変更に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入や、朝、夕の申し送り時に、口頭での申し送り、申し送りノートを活用しての情報共有を通してケアへの実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに可能な限り対応できるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の方に、通院介助や気分転換の為の外出介助等で、協力して頂いている。行事等への参加と協力依頼等を呼びかけ、家族と楽しむ場を設けている。芋煮会には、家族、町の職員、民生委員、理髪ボランティアにも参加して頂いている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所前の主治医であり、家族様対応で受診して頂いている。受診時は、バイタル記録の写しを持参。体調不良時は、関係者間で話し合い、適切な受診ができる様にしている	全員が家族付き添いで、かかりつけ医に通院している。医師への情報提供は状態を文書にして渡す。法人看護師の助言を貰う事もあり、緊急時や専門医受診、家族が付き添えない時は、職員が付き添う場合もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設看護師に状況や、状態を報告し指示やアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中、退院前、退院後と病院関係者との情報交換を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に係る指針」が文書化されており、入所時に、家族に説明し、「事前意思確認書と重度化時対応希望書」を得ている。急変時は施設長、看護師に連絡の上、救急搬送している。看取りは、体制がなく、行っていない	重度化の指針は入居時に家族に説明している。終末期はどこで看取りたいかを確認し同意を得ている。ホームでの看取りは行っていない。状態に変化が見られた時は、家族と早めに相談し、特養や病院等に繋げられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム会議で対応についての研修を行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で実施している	夜間想定を含む2回の避難訓練を実施した。ホームの訓練後は、同敷地内の法人3施設合同で消火訓練を行った。法人内で協力体制が出来ている。通報手順を電話近くに設置し、避難時間短縮の工夫を図った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を尊重しながら、その方にあった話し方や、言葉かけをしている	呼び方は名前に「さん」付けである。入居者の話は、プライドを尊重し否定せず聞く。排泄の失敗時は耳元で声掛けを行い、トイレに誘導し、プライバシーに配慮した見守りを行う。居室へはノックしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自の意思を尊重し、思いを伝えることができるような支援を心掛けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大事に、臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に担当職員を決め、本人の希望に沿った服装や髪型ができるように支援している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握して、嫌いな物には、代替え等に対応している。ホームの畑で収穫した野菜を調理したり、干し柿作り等もしている。また、芋煮会では、各自、得意な分野で、準備に携わっている	ご飯と味噌汁をホームで作り、調理済おかずの配食を利用している。麺類やカレーライスが喜ばれている。おやつのたこ焼き等を一緒に作っている。誕生会等の行事食時にノンアルコール飲料を楽しむ事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の病気や体調に合わせた支援をしている。また、水分や栄養摂取状況が思わしくない方に対しては必要に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗口液を使用し、口腔状態や本人の能力に応じた口腔ケアを実施して清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着やパット等各自にあったものを使用し、時間帯により、変えてみたり、排泄間隔を把握し誘導したり、サインを見逃さず誘導する事で、トイレでの排泄に結び付けている	全員にトイレでの排泄支援を行っている。リハパンに抵抗がある方が布パンツを継続するための配慮に留意した対応をしている。おむつ利用者はいない。夜間は睡眠を優先する事が多いが、定時誘導で失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握に努めている。飲食物の工夫や、水分補給、運動の働きかけ等、便秘の予防に努めている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	熱いお風呂が好きな方、ぬるいお風呂が好きな方、カラスの行水が好きな方、ゆっくり入られる方、希望に沿った支援をしている。また、浴室の富士山の写真を眺めながら、上機嫌で、歌をうたったりして入浴を楽しんだりしている	入浴回数は週2回だが、皮膚疾患のある方は週3回に増やしている。入浴剤の香りや昔話を楽しむやお酒が飲みたい等、思いを話してくれる。拒否のある方は、日を変えて声掛けする等で入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に応じて、休息したり、心地良い睡眠がとれるように支援している。寝具の調整や室温の調整にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方内容の把握と服薬確認の徹底、症状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみごとや役割を見出して張りのある生活が送れるように支援している。飽きないように、楽しみ事や役割も考慮し、レパートリーを増やしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの敷地内での散歩が中心になっている。本人の希望で、家族の協力も得て、外出している方もいるが、少数であり、外出出来る利用者様が、限定してしまっている	敷地内の散歩や野菜の収穫、四季折々に楽しめる桜や紫陽花、カンナ、さざんか等の観賞を楽しんでいる。ウッドデッキでシャボン玉やお茶等で外に出る機会を作り気分転換を図っている。家族と通院時に自宅に寄って来たり墓参りをする方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理が困難な方が、ほとんどであり、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿えるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせたレイアウトを心掛けている。ゆったりと過ごせる居場所作りを心掛けている	食堂は常に窓を少し開け、換気に気を付けている。エアコンや石油ストーブで室温を調整している。職員が掃除し清潔を保っている。ラジオ体操や歌、脳トレ、塗り絵、テレビ鑑賞をして過ごしている。玄関に飾る塗り絵は季節毎に変えている。ストーブで焼き芋を作った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着く空間があり、出来る限りその空間を維持できるように工夫して対応している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人の希望を取り入れて、家族様とご本人様が協力してレイアウト等を考え、居心地良く過ごせるお部屋にして頂いている。混乱の要因になるものに関しては家族様と話し合い改善に努めている	ベッドが備え付けてある。炬燵やテレビ、椅子等を持ち込んでいる。カレンダーや縫いぐるみが飾られ自宅の一室のように設えている方もいる。昼食後の昼寝や新聞を読む、尺八の練習等して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をして入居者様が安全で、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している		